

平成 27 年 4 月 13 日

# 南の風 120

南部ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

たいへん残念なニュースです。

2年間、WJBLの羽田ヴィッキーズで指揮をとった、星澤 純一ヘッドコーチが退任しました。

「何で?」と思われる方もいると思います。表向きは契約満了での退任と言うことです。いろいろあったようです。ここでは触れません。ただチームが、星澤ヘッドコーチの指導や戦術に慣れてきた時だっただけに、本当に残念でなりません。それにしても、2年間という在任期間は短すぎます。

昨シーズンの最後の4試合は、今シーズンのブレイクを予感させるすばらしいゲームでした。まず日立ハイテク クーガースとのゲームは、最下位を脱することになったゲームでした。(詳しくは南の風 114号をご覧ください。)そして、最終の対戦となったトヨタ紡織サンシャインラビッツとの2戦は、手に汗握る好ゲームとなりました。

1戦目は、トヨタ紡織の渡邊選手(横浜西部の大正ミニバス出身)の3Pシュートで始まる。その後もカットイン、ゴール下を着実に決める。羽田は、トヨタ紡織のタイトなディフェンスを攻めきれず、5分間無得点となる。羽田は森本のカットインからペースを掴む。その後、羽田は本田や落合の3Pシュートで点差を詰めるが、トヨタ紡織は畠中、野町の3Pシュートで突き放す。前半を終わり、44対27でトヨタ紡織がリードで終了。後半は、両チームが得点を入れあい、一進一退となる。4Qに入り、トヨタ紡織はファウルトラブルでリズムが狂い得点が止まる。残り5分、羽田の瀬崎、落合の3Pシュートや森本のフリースローで一気に4点差まで詰める。残り1分、森本が得点し2点差とするが追いつかず75対71でトヨタ紡織が振り切った。

2戦目は、さらに激戦となる。立ち上がり、羽田の本田の3Pシュートや瀬崎や外山のバスケットボールカウントでリードを広げる。トヨタ紡織は長部の連続シュートで応戦し、同点に追いつく。羽田は、2Qの終わりに落合の2本の3Pシュートで5点差とし前半を終わる。51対46で羽田リード。後半に入り、トヨタ紡織は野町の連続得点で点差を詰める。その後入れあいとなり、羽田はゾーンディフェンスに切り替え再びリードを広げる。トヨタ紡織は池田の連続3Pシュートで逆転する。4Qに入り、トヨタ紡織は連続3Pシュートで7点差とする。羽田はタイムアウトから、ゾーンディフェンスとマンツーマンディフェンスのチェンジングディフェンスで追い上げる。羽田は外山のシュートで82対82の同点とし延長戦となる。延長戦に入りトヨタ紡織は4ファウルとなるが、羽田のフリースローが10本中、4本しか決まらない。残り時間5秒となる。トヨタ紡織はタイムアウトをとる。直後、野町の3Pシュートが決まり91対91の同点となる。再延長に入り、羽田は連続ゴールで4点リードするが、その後得点できない。トヨタ紡織は、2点ビハインドの残り21秒に、長部がハイポストからのカットインでバスケットボールカウントをとり、アフターシュートも決め96対95で劇的な逆転勝利を収めた。

最後の2戦は、一人ひとりを比較するとサイズや1対1のプレーでやや劣る羽田チームが、戦術を駆使して相手に食らいついて行った印象です。続きは次号にします。